

もとす教道研会報 第31号 令和元年7月18日

発行所:岐阜もとすモラロジー事務所
Tel/Fax 058-324-7756

総会・講演会を開きました!

令和元年6月15日(土)午前10時から、北方町立北方西小学校ひまわり教室において、もとす教育者道德研究会総会並びに講演会を開くことができました。当日は11名のご参加でした。他の行事と重なり、欠席の連絡が多かったのが惜しまれます。ご多用中にも拘らず参加していただきました皆様、誠に有難うございました。

総会の進行を大野副会長、挨拶と役員紹介を森山会長、急遽代理で昨年度会務報告を吉田書記、監査報告を神原監査、今年度の活動案・予算案を吉田書記が行い、それぞれ承認されました。最後は、神谷副会長の挨拶により総会が無事終了しました。

森山会長の挨拶要旨「この会は旧本巣郡2市1町にお住まいかお勤めの方でつくる(生き方を考える)会です。各市町の教育委員会はじめ校長会、岐阜もとすモラロジー事務所等多くの方々に支えられ、今年11年目を迎えることができました。令和の世を迎え、教育の現場は益々厳しく大変な状況にあります。道德の教科が先生方や子どもたちに生きて働くものになるよう応援していけたらと思います」



左から 大野副会長、吉田書記、神原監査、神谷副会長

令和元年度 もとす教育者道德研究会役員・理事

顧問	林 明夫	北方町教育委員
会長	森山 政紀	岐阜県モラロジー協議会事務局長
副会長	上水流弘美	瑞穂市立本田小学校教頭
	大野 琴美	本巣市立弾正小学校教頭
	清水 也人	北方町立北方西小学校教頭
	神谷 肇	岐阜もとすモラロジー事務所事務局長
書記	吉田 光宏	北方町立北方西小学校教諭
会計	大塚 康正	北方町立北方南小学校教諭
監査	宮川 和文	北方町立北方小学校教諭
	神原 重典	岐阜もとすモラロジー事務所顧問
理事	坂野 美恵	瑞穂市立本田小学校長
	森 健治	岐阜もとすモラロジー事務所教育者担当

※今年度、理事枠の本巣市・北方町道德部会顧問は空席

令和元年度 今後の主な活動計画

- 7月31日(水) 第56回岐阜県道德教育研究大会岐阜会場
13:00 岐阜市ぎふメディアコスモスみんなのホール
※申込連絡者の参加費(千円)を岐阜もとす事務所が負担します。
- 8月20日(火) 県道德部会夏季ゼミ 各務原市立川島小学校
- 12月21日(土) 役員・理事会 17:00 北方西小学校
- 2月22日(土) 実践研究会 10:00 北方西小学校
- ※市町を代表して道德教育の実践を発表してくださる方を募集します。自薦・他薦大歓迎(今年度は、特に瑞穂市、本巣市)
- ◎活動を報告する会報カラー版を年3回(7月、9月、3月)発行・配布の予定です。

講演：自分をもっと深く掘れ

～ひとりよがりの生き方では先は開けない～

講演者：高井 健氏（元本巣町教育長）

生き方の指針となるご自身の貴重な体験や豊かな見識を、穏やかな語り口ながら熱く語っていただきました。

「そわか」の美しい生き方

令和の時代がスタートしました。万葉集に材を採った年号のように明るく美しい世の中でありたいものです。国歌の源となった「さざれ石」は岐阜県春日村にあります。今上天皇は、「環境と人間」に関する研究者として国際的に著名な御方で、自国の伝統文化を身に着けた国際人の代表と申せます。これからの日本に期待したいと思います。

生活信条の一つに「そわか」があります。「掃除・笑い・感謝」の頭文字ですが、これらは人生を美しくし、喜びで満たすものと思ひ、日々努めております。教員の思い出として修学旅行を挙げます。「挨拶でもスリッパ揃えでも何でも良いから、これだけは誰にも負けない」を子ども達に自覚させて参加させました。「子どもの心に火が点いているかどうか…」は、教育の成果を大きく左右するものではないでしょうか。また、修学旅行時に集合で失敗した先生には「後のことは責任をもつから、今の自分がなすべき責任を果たすことが大切」と諭し、失敗の経験を次に活かせるよう援助したこともありました。自分をあきらめない強さを人生において身に付けさせたいと念じたのです。

「不易と流行」で自分をもっと深く掘ろう

芭蕉の言葉ですが、特に今「不易」に学ぶ価値があるのではないのでしょうか。安岡正篤（1898～1983）は、陽明学の思想家ですが、「終戦の詔勅」を完成させた人です。所謂玉音放送ですが、「耐え難きを耐え、忍び難きを忍び、…」の言葉は傷心の人々を奮い立たせる名言であったことを思い出します。

新渡戸稲造（1862～1933）は国際連盟事務次長を務め、『武士道』を英文で著



講演中の高井 健氏

して日本人の心を世界に広めた人です。「自分をもっと深く掘れ。『もったいない』生き方をするな。ひとりよがりの生き方では先は開かない」彼の至言です。

私の尊敬する教育者・野村芳兵衛先生のこと

野村芳兵衛（1890～1976）先生は洞戸生まれの偉大な教育者です。戦前は池袋児童の村学校で協同自治の教育を推進、戦後は岐阜師範の長良小学校長等を歴任して独自の教育プランを展開しました。知己を得た私は、お家を直接訪ねて教を乞う程心酔しました。師が亡くなられて貴重な遺品を本巣町（当時）に保存しようかと考えましたが、今は洞戸に立派な記念館があります。

師は外山小学校にも直接教えに来られ、その精神が「野山学校」の碑に刻まれています。「虫とあそんで 虫のくらしやつくりと学び 草とあそんで 道具のはたらきやしくみを学び 友とあそんで なかまづくりの態度と学ぶ」です。子どもの自発性を尊ぶ師の教えが結実しています。外山小学校では、野山学校の流れを生かし「薬草活動」が行われました。教育長として当時の校長より研究発表の相談を受けましたので、「子どもの姿で発表する」助言をしたことを思い出します。そうした外山小の伝統をまとめて博報賞を受賞、全国的な発信をしてくれたのが、当時教頭だった森山会長でした。



高井講師への感謝の気持ちを胸に記念撮影した参加者の皆様

1時間の講演時間がとても短く感じました。高井講師の真摯なお人柄と豊かな識見に感化されたからそう感じたのだらうと思います。感謝申し上げます。講演会の進行を大野副会長、講師紹介を森山会長、お礼の言葉を林顧問が行いました。【構成・森山】

